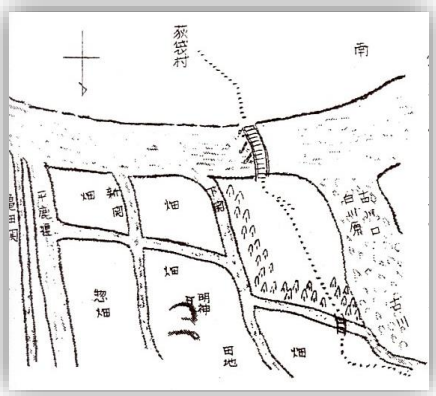
西成瀬歴史散歩
～ミニ～

Vol.4　令和４年　10 月発行
西成瀬地区交流センター運営協議会
〒019-0711　増田町荻袋字真当 72
TEL：45-2657　FAX：45-4092

今回のテーマ：
成瀬川・橋のある風景

西成瀬地域を縦断するように流れる成瀬川。集落間の行き来や通勤・通学など、川の近くに暮らす私たちにとって、橋は生活に欠かせない存在です。しかし、過去には水害による破損や流失など、様々な苦難の歴史もあったことをご存知でしょうか？
今回は、真人橋をはじめ、成瀬川とかかわりが深い西成瀬の橋の変遷をご紹介します。

◆ 真人橋（まとばし）


荻袋村
南
畑
新岡
畑
畑
畑
明神
畑
田
畑
畑
畑

昭和25年7月に真人橋が落下し、翌昭和26年（1951）3月に新しい橋が完成するまでの約9か月間、人々は渡し舟やいかだを利用して川を渡っていたといいます。それは西成瀬小学校に通っていた子どもたちも同じで、川の水が多いときには、吉野から菅生と安養寺を結ぶ河原毛（かわらげ）道路の途中に架けられたつり橋を渡って登下校したこともあったそうです。

（左）昭和 30 年頃
橋を渡って登校
する児童たち

（右）吉野～安養寺間に
あったつり橋
現在は跡形もありません

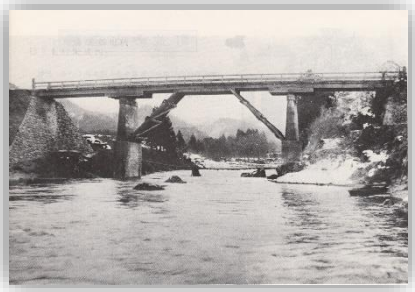
昭和43年（1968）、それまで木造だった真人橋が待望のコンクリート橋に生まれ変わりました。そして平成8年（1996）に現在の真人橋が完成、令和の今も交通の要所としての役割を担っています。

現在の真人橋
親柱には増田町の鳥である
タカが描かれています

◆ 菅生橋&新菅生橋（すごうばし&しんすごうばし）

初代の菅生橋については詳しい記録が見つからず不詳ということですが、昭和6年（1931）には真人橋と同時期に架け替え工事が施工されました。昭和40年（1965）に旧増田営林署（えいりんしょ）の工事によりコンクリートの橋が完成し、以降、現在も生活道路として利用されています。

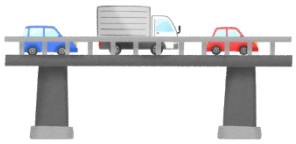
新菅生橋は、昭和59年（1984）に県の道路改良の一環として菅生橋の上流に新設された橋です。こちらも、狙半内と国道をつなぐ主要な道路として毎日たくさんの車が行き来しています。



昭和6年竣工の菅生橋

現在の菅生橋（昭和40年～）

新菅生橋（昭和59年～）



◆ 成瀬大橋（なるせおおはし）

成瀬大橋は、平成11年（1999）熊渕と館花の間に完成した長さ 335mの壮大な橋です。成瀬大橋を含む雄平東部広域農道（通称フルーツライン）の開通により、稲川方面や横手へのアクセスが大幅に向上しました。